

# 人間の免疫機能に関するテスト

**G . C a r o n**

Caron Laboratory of Medical Analysis,

Montreau, France

## 序 論

この研究は、ビデオディスプレイモニタから発せられる電磁界が、それを利用する人間の免疫的な機能に対して、どのような影響を与えるかを調べるために行なったものである。

リンパ球B比率の分析と、さらに専門的に、CD5 / CD20の比率についての分析を行なった。

CD5 / CD20の比率は、免疫機能の指標となるものであり、「普通」の状態で数値は、10%前後である。

分析評価は2度行なった。

1度目は、電磁的な防護なしの状態で、そして2度目はテクノAOによる電磁界からの防護を15日間続けたあとで行なった。

2度の分析結果を比較したときに、基準となる数値の15%と同等あるいはそれ以上の差異があった場合には、その差は重要であるとみなされる。

さらに、20%を越える差異が認められた場合には、それは、自己免疫機能に関連する病気の可能性があると思われる。

## テスト対象物および方法

D = 0 (テクノAOによる実験開始前)の時点, およびD + 15 (15日間の実験終了後)の時点において収集した血液サンプルで, リンパ球についてのデータを調べた。

その結果から導かれたリンパ球のトータルについての基型は,  
CD4 - CD4 + CD45 RA - CD4 + CD29 - CD8 + - CD8 + CD /  
1 b - - CD8 + CD11b + - CD57 CD5 / CD20比率, である。

7名の間が, 平均で1日6時間, コンピュータの画面の前で作業を行った (オペレーションは, 終日行っている)。

そのうちの5名は, 15日間の間で2度のテストを受け, 1名 (No5) は, 7日間の間で2度のテストを受けた。

コントロール (比較対象の基準) については, D = 0 (テクノAOの使用開始前)の時点でのテストのみとした。

さらに, 1名 (No6) については, 既にテクノAOアンテナによる電磁界からの防護を3ヶ月間受けた時点で1度目の検査を行った。

血液検査については、次の通りに行った。

- No 1 , No 2 , No 3 , No 4 , No 5 の人間について、基準値の測定を、テクノ A O による防護を開始する前の  $D = 0$  の段階である金曜日の朝に行う。
- テクノ A O による防護を既に受けている No 6 についても、同時に血液検査を行う。
- No 1 , No 2 , No 3 , No 4 の人間については、2 度目の血液検査を、テクノ A O による防護を開始してから 1 4 日後である、 $D + 1 4$  の金曜日の朝に行う。
- No 5 の人間については、テクノ A O による防護を開始してから 7 日後である、 $D + 7$  の金曜日の朝に行う。
- No 6 についても、1 4 日後である  $D + 1 4$  の金曜日の朝に 2 度目の血液検査を行うが、この人物の場合は、テクノ A O による防護を取り外してから 1 4 日後の検査ということになる。

## 結 果

No4の人間： $CD5 / CD20 = 16.09\% \Rightarrow 16.7\%$

特に重要な変化は見られない。その原因は、この人間のCD4 / CD8比率が、既に、何らかの病状（ウイルスなど）によって影響を受けていたことにある。

No5の人間： $CD5 / CD20 = 10.2\% \Rightarrow 10.5\%$

比率に変化は見られない。その原因は、おそらく、実験期間が短かったこと（7日間のみ）にある。

No2の人間： $CD5 / CD20 = 27.6\% \Rightarrow 18.2\%$ （51%の減少）

テクノAOによる電磁界からの防護による効果の現れである。

No3の人間： $CD5 / CD20 = 16\% \Rightarrow 9.3\%$ （72%の減少）

テクノAOによる電磁界からの防護による効果の現れである。

No6の人間： $CD5 / CD20 = 10\% \Rightarrow 11.5\%$ （14.2%の増加）

3ヶ月間にわたるテクノAOによる防護の後に1度目のテストを行ったうえで、防護を除去。防護なしの状態ですら14日間の実験期間を過ごし、2度目のテストを行った。

テクノAOによる電磁界からの防護がなくなったことによる、免疫機能の低下の現れである。

## 考 察

CD5 / CD20 比率の低下は、免疫機能が改善されたことの客観的な現れである。

このCD5 / CD20 比率は、ある種の自己免疫プロセスにおいて、増加する数値である。

免疫機能に関する実験データを分析した結果は、CD5 / CD20 比率に現されている。

その数値からは、矯正効果をもったELF(超低周波)がテクノAOから発せられ、それが、コンピュータ画面を利用する人間に対して、免疫機能のコントロール要素として働き、同時に、電磁波によって引き起こされるストレスから生体を保護していた、ということが読み取れる。

さらに、テクノAOを取り除いた場合には、CD5 / CD20 比率の増加が認められた。

逆に、テクノAOを使用した場合には、CD5 / CD20 比率は減少した。